

銭塘小学校の「働き方改革」の取組紹介

令和3年は16.4日、令和4年は19.6日と、2年連続で『年休の平均取得日数が最も多かった学校』である銭塘小学校の先生方に、取組の状況等をうかがいました。銭塘小学校は、「学校改革！教員の時間創造プロジェクト」が発足した平成29年度に当時の校長先生がプロジェクトメンバーであられたことをきっかけに取組を始められたそうですが、その後も学校全体で継続的に取り組まれており、勤務時間外の在校等時間の削減や年休の平均取得日数の増加につながっています。

銭塘小学校の「働き方改革」の具体的取組

- 1 日課の工夫による放課後の“何も無い時間”の確保**
 - ・月曜日は掃除なしの繰り上げ6時間授業（月2回程度、6時間目終了後会議や研修を実施）
 - ・水曜日は5時間授業（月2回、5時間目終了後夕会を実施）
- 2 常に全員でのサポート体制**
 - ・職員の出張や年休時は、担任外の管理職及び教務主任だけでなく、空き時間の職員も対応にあたる。
 - ・支援計画においても、学級支援員だけではなく管理職も積極的にサポートに入る。
- 3 職員会議の時間短縮と回数の削減**
 - ・タブレットを活用して、資料を事前にアップし読み込んでもらうと同時に、質問も書き込めるようにしておく。
 - ・会議当日は、提案文書の読み上げは行わない。（変更点や事前質問の回答等のみ）
 - ・読むだけで理解できるような提案の質の向上を図る。
 - ・年度末に、会議議題と提案時間を書き出し整理することで、議題の見直しと精選を行う。
- 4 その他**
 - ・全職員で全児童を見守るといった雰囲気づくり
 - ・教育活動に協力的な地域・保護者の存在
 - ・教材等のデータの保存と活用
 - ・Teamsを活用した連絡と情報発信

会議や日課の工夫による放課後の時間確保等で時間休が、雰囲気づくりとサポート体制で年休が取りやすくなっていると感じました。



話をされているときのみなさんの笑顔が素敵でした

銭塘小学校の先生方へインタビュー

すべての職員にとって“やりがい”“働きがい”のある職業であってほしいと思います。そのためにも、働き方改革もちろんです。学校における様々な取組について、常に全職員で対話して実践していくことが大切だと考えます。

恒松 卓郎 教諭



教務としては、先生方が放課後の時間を確保しやすいよう心がけています。以前は夏休みに行っていた保護者との個人面談を、今は学期末に設定しています。また、5時間授業も積極的に組み込んでいます。学校全体としては、職員の雰囲気づくりが大切だと感じています。

中村 英明 教諭（前教頭）

先生方一人ひとりが、バランスのとれた働き方がされており、管理職の声かけの必要もありません。放課後等にしっかりと時間を確保していることで、安心感をもって仕事ができているのだと思います。

東田 明洋 教頭

